



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
乗合バス
(真鍋自動車商会)

仁尾で初めて乗合自動車が行われたのは大正9年で、真鍋自動車商会は大正13年に開業。発着場は常徳寺の西側にあり、3路線を運行していました。

「思い出のページ」

真鍋自動車商会の子どもと同級生だという真鍋啓三さん（86歳）は、バスが走っていた事はよう覚えとると話し始めました。

小学1年の頃、詫間の親戚に行くのに1人でバスに乗ったことがあったなあ。「学校から帰ったら浪打八幡さんのお祭りに来いよ」と先に親戚に行っている母から言われたんや。初めて1人でバスに乗るのを心配した家族が、ズボンのベルトに行き先と僕の名前や連絡先を書いた荷札を付けて、バスに乗せてくれたんや。八幡さんですでに始まっていた獅子舞に見入っていたら、「この子、荷札をつけて送られとるぞ。のおそなのう（はずかしい）」と母と叔母が笑っていたなあ。小学4年の夏休みには自転車、善通寺へ商売の人形を運んだことがあるんじや。おやじから「50銭やるきん運ばんか」と言われ、喜んで引き受けたんじや。祭りの小遣いが3銭くらいの時代で50銭は大もうけだったんや。

下高瀬までの運賃は35銭（仁尾町誌より）どこへ行くにも歩いてきた時代のようにでした。

編集 後記



♪むかし〜むかし〜浦島は〜♪

おとぎ話としても有名な浦島太郎。三代目浦島太郎こと山田要さんは、浦島伝説ゆかりの地である庄内半島から三豊の魅力を発信し続けています。就任当時に作った玉手箱を30年経った今でも大切に持って、笑顔でイベントに来た皆さんをお迎え。

趣味は？との問いに「イベントの時に配っている貝殻を集めたり、ひょうたんに色付けしたりすることやな」と即答。「昔配った貝殻をずっと持ち続けてくれていた人がおって、とてもうれしかったです」と満面の笑みで話してくれました。浦島太郎に抜てきされて30年。就任当時は黒々としていた髪も今では白髪が似合うようになり、365日姿形、そして生活すべてがまさに浦島太郎でした。

♪絵〜にもかけない美しさ〜♪



▲就任当初に玉手箱を作成する浦島太郎(昭和58年広報たぐま)